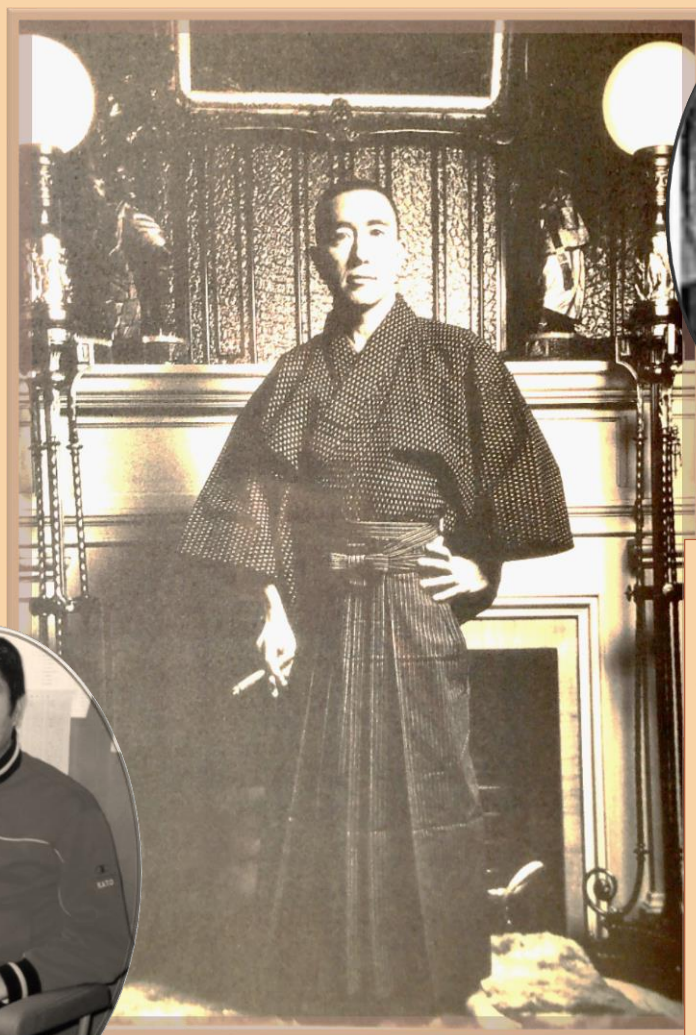


暗黒舞踏の夜24夜「土方巽生誕92年祭」

土方巽を取巻く文学者たち 三島由紀夫編

嘉藤晋作 講演会



土方巽



講師 | 嘉藤晋作

「病める舞姫 第一章」語りと踊り
語り—有志会員 舞踏—今野日音琉



2020年3月7日(土)開場18時 開演18時半~21時

入場料 | 2,000円 学生1,000円 (食事代含む)

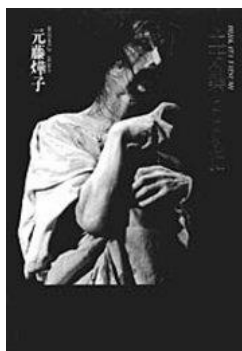
会場 | コラボラトリー (秋田市大町3丁目1-12 川反中央ビル1F)

主催・連絡先 | NPO土方巽記念秋田舞踏会・☎018-864-1179 ✉hijikata-akita@live.jp

土方巽を取巻く文学者たち

孤高の文学者 三島由紀夫 講師 | 嘉藤晋作

三島由紀夫の文学は格調ある唯美な作風を特色とし、国際的な高い評価を受けてノーベル文学賞候補に二度あげられた。三島は創作に心身均衡な肉体が必要だとし、ボディビルと武道の訓練を続けその体育の体験を小説評論に珠玉の言葉で書き表した。一方、天皇を高峰に日本の優れた歴史、文化、伝統の継承と国家防衛のため私設の防衛組織「楯の会」を結成。学生たちと国防の討論を重ね、自衛隊で体験入隊も実行した。三島は西洋風の邸宅で優雅な日常を送っていたが、昭和45(1970)年11月25日昼、自衛隊市ヶ谷駐屯地で学生4人と憲法改正と世直しのための決起を呼びかけたが果たせず、切腹自決。45歳の生涯を終えた。



土方の生家は秋田市を流れる旭川のほとりに移り、そば屋を営む。その後引越した保土野八丁の家はたいそう広かったの、下宿屋も兼ねるようになったという。当時の秋田は軍需景気で鉄鋼業の盛んなところとして発展しつつあったから、下宿は秋田師範と秋田鉱山専門学校生徒でとてもにぎやかだったそうだ。この二つの学校は優秀な人材を教育していることで著名であった。この学校に通っている優秀な生徒、つまり下宿人たちは当時十二、三歳だった少年土方を弟のように溺愛し、また、教育した。のちの土方の文学への憧憬を育み、その道へと案内したのである。韓国人の下宿人が熱心に教えてくれたテコンドウ(韓国の武道)を通じて、身体学への興味も高まっていった。(1959年ころ) 三島由紀夫も稽古にかけつけ、私たちに課題を提供していた。ときどき、二階から衣裳をとり出し、一緒に踊ったりしていた。三島由紀夫はいつもジーパンにポロシャツという軽装で、「土方君いる!」と大声で玄関から入ってくる。稽古の中に入り、「ダリの時計、やっつよ!」などと叫ぶ。それをみんなで踊り、終わると一緒に食事に行ったり、氷屋へかき氷を食べに行ったり、私たちが仲間のような気軽さでお付き合いしていた。『土方巽とともに(1990年発行 著者 元藤燐子 筑摩書房)』

講演 | 嘉藤晋作

1935年(昭和10年)生まれ。秋田市土崎出身。旧秋田市立高等学校(現、秋田県立秋田中央高等学校)卒。日本体育大学在学中、箱根駅伝に4年連続出場。秋田南高校、旧船川水産高校、秋田北高校にて体育教師を勤める。秋田県知事 秋田県体育協会認定クラブ、グリーンスポーツ倶楽部会長。三島由紀夫の文学を紹介する展示イベントを企画し、三島の理解者であろうとしている。

「病める舞姫 第1章」語りと踊り

舞踏 | 今野日音琉

1983年社交ダンスプロ資格を取得。2001年中野智史氏と共にサルサを秋田に紹介。2011年ベリーダンスチーム“guzei”を結成するなどジャンルを超えたダンス活動を展開。2016年からNPO土方巽記念秋田舞踏会の「秋田の身体」のメンバーとして舞踏にも挑戦。

語り | NPO土方巽記念秋田舞踏会「病める舞姫」朗読班

「私の少年も、何の気もなく急に馬鹿みたいになり、ただ生きていただけみたいな異様な明かさを保っていた。そのくせ、うさん臭いものや呪われたようなものに視線が転んでいき、名もない鉛の玉や紐などに過剰なほどの好奇心を持ったりした。鉛の玉や紐は休んだ振りをしているのだと、スパイのような目を働かすのであった。」

社会の片隅で生きる、名誉や富とは無縁の名もなき人々の日々の暮らしや、哀しみや苦しみ、貧しさにひたすら視線を注いで編み出されたのが「病める舞姫」と言えます。「病める舞姫」は舞踏家土方巽が少年、米山九日生の日々を俯瞰するようにして綴られています。九日生少年が等身大で登場しており、スポットライトは主に少年にあてられています。光の届かない部分には常に大人の土方巽の存在があり、時々、カメラの望遠レンズを伸ばしたり、縮めたりするように、大人の土方巽がズームアップされます。「読みとき病める舞姫—土方巽の秋田」5P

主催 | NPO土方巽記念秋田舞踏会 (秋田市泉中央1丁目11-4)

2013年3月結成。会員35名。舞踏の創始者・土方巽を秋田の郷土史と風土において再評価し、土方研究の上で空白となっている秋田市在住時代を明らかにするために「病める舞姫」の解説と、資料の発掘・収集を進めています。また舞踏公演のほか、「病める舞姫」の朗読を始め、舞踊、美術、音楽、演劇などさまざまな文化活動を行い、土方巽を秋田の文化遺産として位置づけるための取り組みを行っています。



同時開催 巽食堂

(参加費に含む)